

全教広島第38回定期大会 教職員の長時間過密労働解消し だれもがいきいきと働きつづけられる学校・職場づくりを!



【オンラインでも30名が参加しました】

大会は武本副委員長の開
会宣言ではじまり、議事運
営委員や議長などを選出し
た後、小林委員長が開会の
あいさつでは、「私たち
は、政治をよくするため
に、勇気をもって一步を踏
み出しましょう!憲法と子
どもの権利条約を教育に生
かし、今を戦前にすること
なくいつまでも戦後でいま
しょう!まさに全教広島
の真価が問われている」

全教広島第38回定期大会は、オンライン併用で5月20日(土)、
広島ロードビルで開催されました。大会には支部専門部選出の代
議員など60名あまりが参加しました。広島各学校と教育の現状が
交流されるとともに、それらを打開する小さな一歩や展望が語ら
れました。提案されたすべての議案が全会一致で採択されました。

「市民行進はマスクミがこ
ぞって、内容抜きでお祭り騒
ぎのようにサミットの雰囲気
をあおる中、各国首脳に対し
て、あなたたちは核兵器をな
くすために被爆地広島へ来て
いるのですよ!という自覚を
促すためにも意味のある行動
だった」と強調しました。

全教本部からは、波岡副委
員長が現地参加で挨拶。あい
さつでは、G7サミットに触
れ、憲法9条を守り生かすこ
との重要性と給特別法の改正
などの情勢と超過勤務縮減に
むけた取り組みが報告されま
した。

執行部からの提案がなさ
れ、討論は全部で18本、いず
れも議案に賛成し、補強する
立場から、職場に根ざし、働
き方の実態について触れる発
言が多かったのが特徴でし
た。若い世代の方の発言も多
く、希望を持てる会になりま
した。コロナ禍のなかでの学



校や子どもたちの様子が語ら
れ、困難な中でも奮闘している
様子が語られました。とりわ
け、学校と教育の課題や、教職
員の数を抜本的に増やして、ゆ
とりをもってすべての子どもた
ちに寄り添える教育条件整備を
進めることの重要性を確認しま
した。

そのためにも仲間を大きく増
やして一層大きな全教広島をつ
くっていくことの重要を確認す
ることができるとなりました。

また、G7サミットの
最中での開催ということもあ
り、核兵器廃絶を掲げ、あきら
めず声をあげ続けることの大切
さが多くの代議員から語られま
した。



全教・波岡副委員長

あらくさ
ロシアとウクライナの
戦争は一年過ぎた今な
お続いている。日本の
軍事費は過去最高と
なった。

憲法記念日にあたって、改
めて日本国憲法前文を読み直
してみた。「再び政府の行為
によつて戦争の惨禍がおこら
ないように決意し、ここに主
権が国民に存することを宣言
しこの憲法を確立する。」

政府が戦争につき進んで
いった過去を反省し、これか
らは国民が主人公となって日
本の国づくりをはじめめる。つ
まり民主主義の徹底が惨禍を
起こさない唯一の道である。

さらに、日本の平和や国益だ
けにとどまらず世界の人々と
手をたざさえて世界中から差
別、貧富の差、恐怖等を無く
すために先頭に立ちたい。

人類が共存していく上での
普遍的な価値のある文章に心
ふるわされる。政府に、足か
せをかけなければならぬ。
主権者である私たちが戦争へ
の道を止められる。(T)

全教の役割と成果を伝え、 ねばり強く訴えれば仲間は広がります！



第38回定期大会では18名が発言しました。いずれの発言も執行部提案を補強し、厳しい情勢の中でも展望が感じられるものでした。

■昨年度は、県教委交渉で、養護教員の実情を届けた。総会などの集まる機会を増やし仲間の声を集めたり、学習の機会を大切にすることを活動に取り組みたい。
(養護教員部)

■広島市のICT教育では、家庭への持ち帰りを進めることが加速しています。このような持ち帰りの波の中で、多くの問題点がおこっている。
(広島)

■サミットの学校への影響について、年休もしくは、在宅勤務。学習サポートの方は休みになり、5万円収入が減る人もいるときいている。
(広島)

■職場で産休に入る先生が複数人いるのに代替者がみつからない、新たに病休者が出たために学校は限界。何とかしてほしい。
(福山)

■子どもたちは主体性が弱く自己肯定感も低い。自立しにくい子どもを前に「教育上の課題は何か？教育の本質にもどって考えよう」と提案して、実践している。
(福山)

■子どもらや教職員の負担を少しでも軽減する努力を重ね、「仕事の“削減”が無理なら、せめて“改善”を目指してこれからはがんばっている。
(福山)

■全教への加入を粘り強く訴えている。全教の活動や取り組みを知らせることが大切。「自分に関係ないと、誰かのせいにするのではなく、なぜ社会や学校がこうなっているのか本質を見抜いた時、組合の大切さがわかる。
(広島)

■全教への加入のお誘いを受け加入した。全教がみんなのため頑張っていることは知っていた。自分も何か役にたつことがあればと思い加入した。働きやすい職場にしていきたい。
(広島)

■特別支援学校も教員不足が深刻。戦争の足音が聞こえてきます。国会では悪法が通されようとしています。成立させない運動が必要。
(佐伯)

■G7広島サミットにかかわって学校では、さまざまな強制が行われた。「核抑止の立場を被爆地ヒロシマで確認する」という許せない結果になったが、あきらめず核兵器廃絶を発信していくことが重要。
(広島)

■民間で働いていた。転職で教員になり2年目。実験準備等手探りですすめている。時間が足りないという焦りがある。
(尾道)

■昨年度、高校入試制度の変更によって、学力重視の方向、自己表現の導入、公立高校の定員割れなど多くの問題がある。どう変わったのか、どこに問題があるのか知ることが大切。
(高校)

■高校入試制度の変更では、自己表現は教員や子どもへの負担が大きい。一年生から総合の時間で対策のための準備がすすめ

られている。業務量の削減は、予想していたより軽減はなかった。改善すべきことがたくさんある。
(広島)

■海田で平和コンサート開催。コンサートでは予想より多い100名が集まった。全教らしさを出そうと地元で活動している方の報告をお願いした。一人ひとりがつながり声かけができた。
(海田)

■昨年度は久しぶりに顔を合わせたの学習交流会を開催した。女性部アンケートはグループフォームを活用して取り組んでいる。10月には憲法の学習会を予定している。
(女性部)

■平和ノートにかかわっては、はだしのゲン削除だけではなく第五福竜丸の記述削除されている。まだ、解決していない問題をなかつたかのようにしてしまうのは問題。青年には学びの場が求められている。
(青年部)

■特別支援学校の定員を減らす署名に取り組んでいる。子どもたち8人を一人で見るのは無理

〈大会宣言〉

平和と民主主義を守り、

子どもと先生の笑顔あふれる学校をつくりましょう！

へいわってなにか。ぼくは、かんがえたよ。ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎがのんびりあるいてる。ちょうめいそうがたくさんはえ、よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。へいわっていいね。へいわってうれしいね。みんなのころから、へいわがうまれるんだね。ああ、ぼくは、へいわなときにうまれてよかったよ。これからも、ずっとへいわがつづくように、ぼくも、ぼくのできることからがんばるよ。
(「へいわってすてきだね」)

ロシアによるウクライナ侵略から1年あまりが経過しました。同時にアジアでの軍事的緊張をあおる動きも高まる中で、全教広島は被爆地ヒロシマから「教え子を再び戦場に送るな」の決意とともに、世界の戦争終結と平和実現を求める取り組みを旺盛に展開してきました。

3年あまりにわたるコロナ禍は、社会はもちろんのこと、子どもたちの学びと生活、そして教職員の教育活動に大きな影響を及ぼしました。加えて、諸物価高騰による家計への打撃も子どもたちの健康と成長に重大な影響を与えています。

文科省は、「資質・能力」論に貫かれた改訂学習指導要領によって、「人格の完成」をめざす教育から、財界・産業界が求める「グローバル人材」育成の教育に変質させようとしています。しかし、学校現場に急速に押し付けられたデジタル化の波は、教育予算増による少人数学級前進や教職員定数改善に背を向けているため、大きなひずみを生みだしています。

文科省が公表した教職員勤務実態調査結果では、時間外勤務が4.5時間/月を超える先生が、中学校77.1%、小学校64.5%と、依然として深刻な実態にあることが判明しました。「教育に穴があく」事態がつづき、「新学期、全国の学校で教員不足1500人。担任不在で自習も」との見出しが新聞紙面に踊ります。

全教の全国調査では、長時間過密労働解消策として「教職員の数を増やす(89.7%)」が断然トップであることがわかりました。部活動についても放置できない状況です。「給特法」を改正して時間外勤務をなくす取り組みを急ぐことが求められています。

全教広島第38回定期大会は、困難な中でも子どもや地域とともに歩む仲間の姿と全教広島の存在価値をあらためて浮き彫りにしました。

今こそ私たちは、すべての子どもたちの成長と発達を保障する学びを大切に、憲法と子どもの権利条約にもとづいた教育を実現する取り組みをすすめてみましょう。

教職員の長時間過密労働を解消し、だれもがいきいきと働きつけられる学校・職場づくりを行うため、仲間を増やし、職場を基礎に力を合わせていきましょう。

「教え子を再び戦場へ送らない」決意を胸に、平和と民主主義を守り、子どもと先生の笑顔あふれる学校をつくりましょう。

右、宣言します。 2023年5月20日 全教広島第38回定期大会



福山・北川さんとともに議長をしていただいた西本さん(市教組)。

特別決議採択

「戦争準備のための大軍拡・増税を許さず、岸田内閣を退陣に追い込もう」～戦争の準備ではなく、平和の準備を！～との特別決議を採択しました。被爆地ヒロシマの教職員組合として世界の戦争終結と平和実現のためにこれからも奮闘していく決意を表明しました。

始めて特別支援学校を担当する教員も増えており、研修が大切。障教部では今年も「入門講座」を開催して学びの場を広げたい。(障教部)
■教育長官製談合疑惑の問題では、監査請求を行ったが却下された。今後、裁判闘争の準備をすすめている。(高校)

被爆地ヒロシマから核に固執する宣言は許せない！ 被爆地ヒロシマから「核抑止で平和はつukれない」と訴え！



核抑止で平和はつukれない！
「G7広島サミット」は19日、「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」（以下「ビジョン」）を発表した。「被爆地・ヒロシマ」で開催したサミットとしては、被爆者と被爆地ヒロシマの願いを真つ向から裏切るものです。「ビジョン」では、「核兵器のない世界」は「究極の目標」としています。被爆地ヒロシマから核に固執する「宣言」は許せません。

市民行進で核廃絶訴え
県原水協、県被団協などでつくる「G7広島サミットを考えるヒロシマ市民の会」はサミット中日の20日、市内商店街で「G7広島サミットに被爆地の声を」と掲げて「市民行



進」を行いました。行進には被爆者や「カクワカ広島」共同代表の田中美穂さんなど若い世代をはじめ、兵庫原水協など県外、そして海外からも参加者があり250人に膨れ上がりました。参加者は、日英仏独伊中口の7カ国語で表した「核兵器廃絶」のプラカードを掲げ、「平和を」の歌を歌いながら核兵器廃絶を訴えました。

5月14日に開催した「市民集会・シンポジウム」。日本パグウオツシユ会議の広渡清吾さんが特別報告。4人のシンポジストによるシンポジウムを行いました。広渡さんは、「第1回国連総会が採択した世界人権宣言第1条は、人類の一人ひとり、個人として平等の尊厳をもつことを規定した。だれ一人殺さない、だれ一人殺させない、人類にとって当り前のことを貫くことが、被爆地広島が訴えるG7サミットの課題である」と指摘しました。

市民集会・シンポジウム

全教広島SNSへの登録を！

定期的に全教広島の行事や取り組み等の情報をアップしています。ぜひ、登録してつながりましょう！

全教広島公式ライン



全教広島ツイッター



全教広島ホームページ新規開設

全教広島ホームページを新規開設しました。全教広島紹介記事、取り組みや行事等のお知らせ、共同の取り組み等豊富な情報が満載されています。また、各支部や専門部などのニュースや取り組みも紹介しています。組合員の方はもちろん、これから組合への加入をすすめたい方にも、ぜひ紹介して広げてください。

下記URLまたはqrコードから入室できます。

<https://zenhiro.net/> ⇒

